



富士に生きる一紙のまちの歴史と文化—

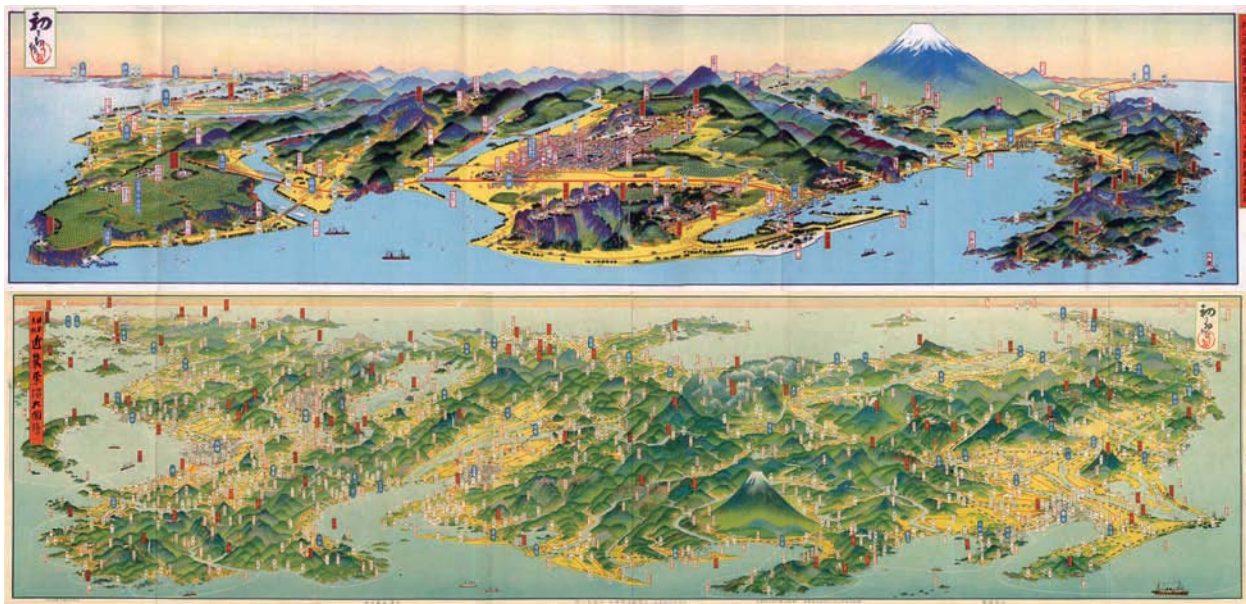
富士市立博物館

Fuji Municipal Museum

博物館だより

2013
7.31

62号



富士山 世界文化遺産登録記念 特別展

鳥の目で見た富士

ちょうかんず
～鳥瞰図の世界～

平成 25 年 7 月 6 日 (土) ～ 9 月 29 日 (日)



上: 牧之原茶園および静岡市を中心とする静岡県鳥瞰図 (1927 年、当館蔵) 中: 日本鳥瞰近畿東海大図絵 (1927 年、個人蔵) 下: 東海道パノラマ地図 (1921 年、個人蔵)

観光地では、古くからいろいろな観光パンフレットが作られ、たくさんの人たちが利用してきました。現在では豊富な写真や地図が入ったパンフレットを多く見かけますが、今から約 80 年前には、鳥の目で見たかのように、空から観光地の様子を描いた鳥瞰図という地図を入れたパンフレットが大流行しました。

この地図の中には、本来なら見えない場所から

富士山を描いたものや、目で見るとより大きく富士山を描いたものなど、普段とはちょっとちがう富士山が登場するものがあります。

この展示会では、富士山の世界文化遺産登録を記念して、鳥瞰図に描かれたいろいろな富士山をご紹介します。あなたの知らない富士山を博物館でぜひご覧ください。

(井上 卓哉)

富士山世界文化遺産登録記念特別展

「鳥の目で見た富士～鳥瞰図の世界」より

I 富士を眺める～鳥瞰図へのいざない

麓から見る雄大な富士山、はるかに見える富士山。標高 3,776 メートルの独立峰であるからこそ、富士山の姿は様々な場所から見るができます。

そして、遠くや近くにそびえる富士山を鳥のように上空から広く眺めたいという欲求を満たす試みは、江戸時代から盛んにおこなわれてきたことが、当時の浮世絵作品からも確認することができます。

また、富士山は、信仰の対象としての性格も持っており、江戸時代には一般の人々の間にも、登拝というスタイルが定着することとなります。そのため、登山者の利便や誘致に供する目的で、各登山口から山頂へいたる信仰空間を、上空から見たかのように表現する絵図類が江戸時代を中心に盛んに製作されました。



東海道名所一覧（1818 年、当館蔵）



富士山立体絵図（江戸時代、当館蔵）

このように鳥の目で見たかのように富士山を描く試みは、後の観光ブームにもなって求められた観光案内書に所収された鳥瞰図の作家達へ受け継がれ、世に広まることとなります。

II 「大正の広重」～吉田初三郎が描いた富士山

「名所図会の生命はあくまで自然を巧みに捕えて、自家葉籠中のもの（必要に応じて自分の思うままに使える物）となし、一目してその美しき山容水態を彷彿せしむる所にあり、幾何学的な測量図や平面図は、専門的以外に其の真価の甚だ少ないのを言明して憚らないものである。すなわち万人が見て楽しみながら解り得べきもの、これがすなわち私の作品の生命とするところであり、陛下の御言葉以来、私の芸術に対する信条となったものである。」（『旅と名所』第1号、昭和3年）

この一文は、自らを「大正の広重」と呼び、大正後期から昭和初期にかけて 1600 種以上の鳥瞰図を描いたとされる吉田初三郎（1884-1955）が自らの作品について語ったものです。

吉田初三郎は、洋画家を志した青春時代を送りますが、大正元年頃、師匠である鹿子木孟郎の勧めにより、企業からの依頼に応じて絵を描く商業画家として活動する決心をしました。

そして、大正2年、京阪電車の依頼により製作した「京阪電車御案内」が、翌年に修学旅行で京阪電車に乗車した皇太子（後の昭和天皇）により「これはきれいでわかりやすい。東京に持ち帰って学友にわかちたい。」と賞賛されることとなります。この言葉に感激し、初三郎は名所沿線などを鳥瞰図で描く作家として歩む道を定めたのです。

それ以降、彼は多くの鳥瞰図の製作に携わりますが、その製作の根底に常にあったのは、自らが述べているように、各地を訪れて忠実に自然を描いた多くのスケッチをもとに、多くの人々が楽しく見ることができるものを作るということでした。

こうした姿勢で描かれた鳥瞰図の中に登場する富士山は、その山容が強調されて描かれたものや、本来見えるはずのない場所から描かれたものなど、様々な姿で描かれています。

それは、人々を楽しませるためという目的だけではなく、初三郎や、初三郎の鳥瞰図を求めた当時の人々が抱く富士山に対するイメージが画像となって表現されたものといえるでしょう。

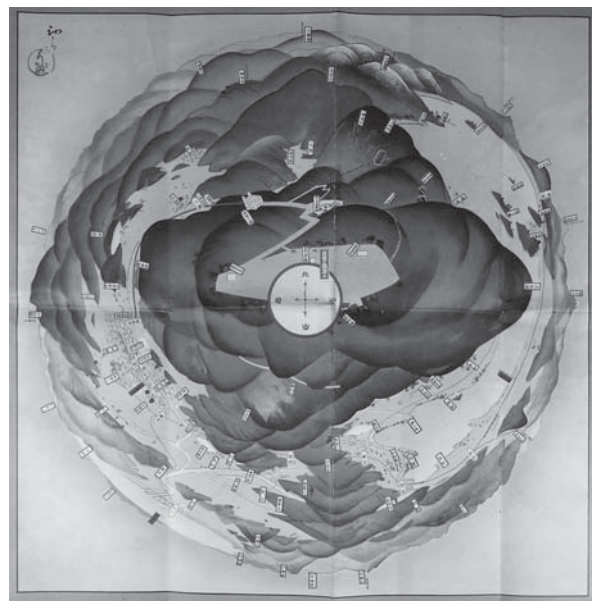
Ⅲ 富士へのあこがれ～鳥瞰図に描かれた富士山

大正時代から昭和初期にかけての鉄道網の発達は、短時間での人々の移動を可能にしました。また、社会の変化により、ある程度の所得と、仕事に縛られない自由な時間を持つ人々が増加することとなりました。そうした人々の間では、鉄道に乗って観光地を訪ね、自由な時間を費やすという「余暇」の過ごし方が広まります。

人々は、余暇をどこで過ごすか、どのように向かうか、そして、その行き先には何があるのかということをも、一目で分かりやすく知るためのメディアを求めました。それに応えるように吉田初三郎や彼の弟子たち、彼の影響を受けた作家達により、路線案内や名所が描かれた様々な鳥瞰図が作られることとなったのです。

その背景には、人々の「余暇」の受入先としての鉄道会社や観光業に携わる企業、観光に活路を見出す自治体などのクライアントの存在がありました。これらのクライアントが売り出したいものは何かということが、鳥瞰図の中に表現されたのです。

富士山が描かれた鳥瞰図についても例外ではなく、ただ図の中に富士山が描かれたのではなく、富士山を観光資源としてどのように活かしていくか、そして、多くの人々に富士山の魅力をどのように伝えていくの



叡山頂上一目八方鳥瞰図（1926年、当館蔵）

かということが追求されたものといえます。

このたび、富士山は世界文化遺産へと登録されましたが、同時に日本だけではなく、世界の宝となった富士山を後世の人々へどのように守り、伝えていくのかということが重要な課題であるといえます。

そのためのヒントの一つが、富士山を描いた鳥瞰図の中に隠されているのかもしれません。

（井上 卓哉）



富士身延七面山名所図会（1927年、個人蔵）



伸びゆく富士町（1948年頃、当館蔵）

富士山世界文化遺産登録記念テーマ展

富士山東泉院と富士山信仰

平成25年10月12日(土)～12月22日(日)

富士山東泉院^{とうせんいん}は富士山南麓地域における中心的な寺院の一つです。山号を「富士山」ということから、富士山を活動の拠点としていたことがうかがえます。戦国時代には富士山周辺で活動していた村山修験とのかかわりが深く、村山修験の勢力から離れた後、明治時代初期まで密教寺院として活動を続けていました。では、東泉院は実際にどのような活動を行っていたのでしょうか。富士山の噴火や地震など、天変地異の際には、徳川將軍家より命じられて国家安泰の祈禱を行った記録が残っています。また、富士市内にある五つの浅間神社(下方五社:富知六所浅間神社、滝川神社、今宮浅間神社、入山瀬浅間神社、日吉浅間神社)の別当職でもあり、下方五社を管理する中で、神事や祭礼といった年中行事を執り行っていました。

浅間神社は富士山の神様を祀る神社として古くから人々の信仰の対象となっていた神社です。東泉院の史料の中には、『富士山大縁起』という古文書が伝わっています。富士山縁起は、富士山や富士山信仰にかかわる寺社に関する由来や伝説などを記したものです。『富士山大縁起』所収の「かぐや姫説話」には、「富士山の神様はかぐや姫である」と記されています。この物語の中のかぐや姫は、最終的に富士山の神様として富士山頂の洞窟に帰っていきます。富士山の南麓地域における、かぐや姫と富士山信仰とのかかわりを考える上でも大変興味深い史料です。

今回の展示会では、富士山の神様を祀る浅間神社の神事や、富士山に参詣した人々が残した記録を中心にご紹介することで、富士山に対する当時の人々の信仰について考えていきたいと思います。

(相場 朋子)



山号額「富士山」(1770年、当館蔵)

富士山世界文化遺産登録記念テーマ展

富士山名品展

平成26年1月25日(土)～4月6日(日)

現在博物館では、古文書や民具、美術工芸品など様々な分野にわたる資料を収蔵しています。

これらの多くは、市民のみなさんが家で大切に使用してきたもののほか、代々受け継がれてきたものを博物館に御寄贈して下さったものも沢山あります。

これらの中には、「富士山」に関係するものも多くみられます。版画や絵画などの描かれた富士山。登山道を記した絵図。富士山を撮影した古写真^{きせる}。煙管や刀の鐔^{つば}、焼き物などの美術工芸品に装飾されたもの。昔から富士山への信仰やその美しさに魅せられ、題材として様々なものに使われたと考えられます。

今回の展示会では、館蔵品を中心に版画や絵図、古写真、焼き物など富士山を題材にした資料を紹介します。

(井坂 武男)



富士山を背にした茶摘(古写真、当館蔵)



染付富士山文皿(江戸時代後期～明治時代、当館蔵)

六所家総合調査シンポジウム

東泉院聖教の世界～富士山麓・吉原宿のアーカイブスを探る～

平成 25 年 2 月 2 日、富士市役所消防防災庁舎において、六所家総合調査シンポジウム「東泉院聖教の世界～富士山麓・吉原宿のアーカイブスを探る～」を開催いたしました。

東泉院は明治初期まで市内今泉に所在した真言宗の密教寺院です。博物館では、東泉院に伝わる資料の整理作業を進めています。東泉院資料は、中世・近世を中心とした古文書史料（歴史史料）、民俗資料、美術工芸資料などの分野に分けられますが、今回のシンポジウムでは「聖教」という分野に焦点をあて、現在までの調査成果を報告する機会といたしました。

「聖教」とは經典の注釈書、寺院での行事の次第、儀礼の作法などを記録したもので、寺院の成立や活動に不可欠な書物とされます。東泉院聖教類の中には、中世期に遡る資料の存在も確認されています。東泉院の歴代住職は、真言密教の仏法の伝統を継承していくために修行を積み、時には醍醐寺や高野山などの本山格の寺院で学ぶことによって、一流の聖教を受け伝えてきました。

以上のような背景を持つ東泉院聖教類の中には、密教寺院の運営に欠かせない史料が多数伝来しています。これは全国的にも非常に珍しい事例であり、また、その中には学術的にも大変貴重な資料が含まれています。そこで、国内の宗教テキスト学研究的の第一人者である、名古屋大学の阿部泰郎教授のグループに調査を委託し、東泉院聖教類の整理・研究を進めてきました。今回のシンポジウムでは、名古屋大学の研究グループから 6 名の先生方に講演をしていただきました。



シンポジウム風景

◆基調報告

阿部 泰郎（名古屋大学教授）「東泉院聖教の全体像」

◆報告

伊藤 聡（茨城大学教授）「東泉院聖教の貴重文献一特に『御口決集』をめぐって」

大高 康正（元興寺文化財研究所研究員）「富士山東泉院歴代の事跡」

大東 敬明（國學院大學研究員）「東泉院の神道印信類」

◆ミニ報告

阿部 美香（昭和女子大学講師）「子安地藏尊の“約束”一開かれた地藏堂とその縁起一」

三好 俊徳（名古屋大学研究員）「東泉院の密教事相書 ―『秘鈔』を中心に」

シンポジウム当日は143名の方々にご来場いただきました。聴講者のアンケートからは、「地元にも貴重な文化や歴史が受け継がれていることに感激した」、「今泉に住んでいるので身近に感じ、孫たちに伝えていきたいと思った」、「東泉院がどのようなところにあったのか、訪ねてみたい」などのご意見をいただきました。

東泉院は富士山麓という聖地・霊場において大きな力と長い歴史を持っていました。また、「下方五社」という富士地域の浅間神社を管理する中で、神事や儀礼の作法を伝授しており、地域の文化や神事の拠点でもありました。今後も東泉院に伝わる資料を読み解くことで、富士山麓における信仰の実態を明らかにしていきたいと思います。

（相場 朋子）



六所家旧蔵資料・神道灌頂本尊図（江戸時代末期、当館蔵）

解説）三種の神器を密教法具によって象徴している。密教の秘法を伝授する儀礼の際、本尊として掛けられていたと考えられる。

展示会案内（富士山世界文化遺産登録記念事業）

- 特別展 H25.7/6（土）～9/29（日）
鳥の目で見た富士 ～鳥瞰図の世界～
- 企画展 H25.8/13（火）～8/18（日）
富士の型染展
- テーマ展 H25.10/12（土）～12/22（日）
富士山東泉院と富士山信仰
- テーマ展 H26.1/25（土）～4/6（日）
富士山名品展
- ロビー展示 H25.6/25（火）～9/29（日）頃まで
古代富士郡の人々と富士山のかかわり

子ども向け体験講座

●チャレンジそばっ子

そばの種まきからそば打ちまでを体験 4回連続講座です。
8月25日（日）・10月27日（日）・11月16日（土）・11月30日（土）
いずれも9:00～12:00 会場：旧稲垣家住宅
※往復ハガキで抽選 8月11日（日）消印有効

●旧稲垣家住宅で昔の生活体験

- ① 7月25日（木） 10:00～13:00 かまどでごはん
 - ② 8月7日（水） 10:00～13:00 戦時中の料理
 - ③ 12月23日（月祝） 10:00～13:00 餅つき&しめ縄作り
 - ④ 1月13日（月祝） 10:00～13:00 小正月の行事
- ※申込開始は①7月14日（日）、②7月28日（日）、③12月15日（日）、
④1月5日（日）、いずれも9:00から電話または直接来館にて受付

●原始のはたおり体験

原始機を使用してポシェットを作る。
8月6日（火） ※申込開始は7月27日（土）

※往復ハガキ以外の各体験講座の申込は午前9:00より電話、来館にて受付。

●親子どきやき体験

土器ペンダント制作と火おこし 年少～小学生とその保護者参加
①11月23日（土祝）②2月11日（火祝）いずれも9:00～
※申込開始は①11月16日（土）、②2月1日（土）、いずれも9:00から電話または直接来館にて受付

一般向け体験講座・イベント

◆富士山世界文化遺産登録記念事業

富士の型染 ～富士山タペストリー作り～
富士山をモチーフとしたタペストリーを作ります。
8月9日（金）9:30～14:00 ※申込開始は7月27日（土）

◆陶芸歳時器

季節感あふれる陶器を制作。（奇数月第2土曜日）
※申込みは第1土曜日

◆チャレンジ!! 陶芸

粘土1キロを使って自由作品を制作。（偶数月2回連続）
第2土曜日に成形、第4土曜日に絵付けを体験。
※申込みは第1土曜日

◆葉彩画入門

落ち葉を用いて絵を描く3回連続講座。
10月25日（金）・11月1日（金）・11月15日（金）
※申込開始は10月17日（木）

◆博物館の日

各月第1日曜日 ※9月・12月は第2日曜日
事前申込不要で各種体験が可能。10:00～14:00

◆かやぶき農家の癒しのおながく会（旧稲垣家住宅）

各月（8月を除く）第3日曜日 13:30～15:30入場無料

富士市立博物館だより No.62

発行年月日 平成25年(2013) 7月31日

編集・発行 富士市立博物館 Fuji Municipal Museum

住所 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2

TEL. 0545-21-3380 FAX. 0545-21-3398

HP. <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/>

E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間 4月～10月 9:00～17:00 11月～3月 9:00～16:30

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/28～1/4(年末年始)

入館料 大人100円(60円) 小・中学生50円(30円) ※ ()は20名以上の団体料金

※「しずおかミュージアムパスポート2013」持参者は無料。

歴史民俗資料館(分館) 開館時間・休館日は本館に同じ 入館無料

博物館屋外展示(ふるさと村) 休館日なし 入園無料

